

トランスナショナルなコミュニティの成立と制度企業家

——東南アジア地域統括会社マネジャーの成功と認識——

上智大学 細萱伸子

1 目的

この報告の目的は、トランスナショナルなコミュニティとして複数の国にまたがる多国籍企業子会社を取りまとめる統括組織をとらえ、そこでの制度導入プロセスを規定する諸力について、制度企業家という概念とマネジャーの認識を中心に明らかにすることにある。実際の組織運営はその組織が所属する組織フィールドや埋め込み、組織のアイデンティティなどの複数の要因から影響を受けることが明らかになっているが、そこでもとくに重要な役割を果たすマネジャーの認識、さらにはその結果可能になる行動に着目することで、トランスナショナルなコミュニティが持つ特性と適切なマネジャーの関係を示す。

2 方法

データには、筆者がシンガポールを中心に実施してきたインタビュー記録を用い、トランスナショナルなコミュニティを確立した成功事例におけるマネジャーの認識と行動を分析した。分析に際しては、先行研究が示す、制度導入と主導者たる制度企業家の活動内容と結果の関係から枠組みを作った。制度派理論では、アクターは基本的に組織フィールドに埋め込まれていると考えられる。一方で、地域統括会社では、本社を中心にするフィールドに埋め込まれながら、子会社の存在するフィールドを考慮し、そのうえで、地域という新しいフィールドを構築しなければならない。そのプロセスが、マネジャーのどのような活動によって可能になるのか。マネジャーの状況における地位、用いられたストーリー、動員された資源、合理性を付与する理由づけ、などに関するマネジャーの認識を整理していくことにより、より良い結果を出すマネジャーの行動にはどのような特徴や相違がみられるのかを明らかにする。

3 結果

分析の結果、先行研究によって指摘される制度的企業家に関する要素が、地域統括会社のエクスパツツマネジャーによって満たされていることが、制度構築の成功と深く関連することが確認された。つまり、主導的な地位はその組織構造によっておおむね規定されているが、それに加えて、業務上のスキル、制度的文脈への理解、共感などを併せ持つことがマネジャーとしての成功につながる。マネジャー自身の知識や能力が不足する場合には、同僚のローカルマネジャーの助けを得られること、そうした活動を通じて、関連する他の組織フィールドとの橋渡しが可能になるにつれ、トランスナショナルなフィールドとコミュニティの構築が実現する。こうした関係構築がなされない場合には、地域統括そのものの見直しがされることもある。

4 結論

以上から、トランスナショナルなコミュニティとは、異なる組織フィールドに属するメンバーが多国籍企業の名のもとに集められ、地域の活動を需要するプロセスで新たに構築されていく。企業組織といえども、公式組織として規定されればそれで活動が成立するものではなく、地域単位のプログラムという制度の創出で強化され、新たな空間として確立されること、その確立には制度企業家といえるアクターたちの認識と状況との関連で適切とみなされる活動が不可欠であること結論された。

文献

佐藤郁哉・芳賀学・山田真茂留, 2011『本を生きだす力』新曜社, 他